

(続)琉球方言における形容詞の比較研究 —津堅島方言と多良間島方言—

A Comparative Study of Adjective in Ryukyu Dialect (sequel)

— Tsuken Dialect and Tarama Dialect—

志學館大学 又 吉 里 美

千葉大学 下 地 賀代子

1 はじめに

本研究では、又吉・下地2010「琉球方言における形容詞の比較研究」に引き続き、北琉球・津堅島方言と南琉球・多良間島方言の形容詞について、活用形式とその文法的意味の比較を行う。両方言はともに「サアリ型」形容詞をもつ言語であるが、その活用のパラダイムは同じではない。終止形、連体形、準体形までを扱った前稿では、語幹形式および「ハ語幹」「サ語幹」の形式をもつなどの共通点とともに、ある語形に接辞や文末詞などを伴った表現を積極的に用いる津堅島方言と、活用形のバリエーションが多く、語形変化によってさまざまな表現を行う傾向の強い多良間島方言という、「表現」のための文法的手段の差異がみられることを明らかにした。

本稿では、前稿の成果を踏まえつつ接続形、条件形、中止形、連用形についても比較・考察を進めていき、両方言の形容詞について、その活用体系全体の比較研究を試みる。なお、津堅島、多良間島およびそれぞれの方言の概略については又吉・下地2010を参照されたい。

2 各方言形容詞の基本的構造

まず、津堅島方言、多良間島方言それぞれの形容詞の基本的構造および終止形、連体形、準体形の形式を示しておく。(詳細は前稿を参照のこと。)

2-1 津堅島方言の形容詞

津堅島方言の形容詞は語根 + ha/sa + aN (存在動詞「ある」) の構造をとり、語根 + ha/sa が活用の語幹として位置づけられる。本研究ではこの takaha-、jaqsa- のような「語根 + ha/sa」の形式を「ハ語幹」と呼ぶ。

takahaN (高い) taka + ha + aN タカ - ハ - アン
jaqsaN (安い) jasu + sa + aN ヤス - サ - アン

また、h が脱落し、前部の母音が長母音化した形で現れたり、h が w に変化して現れたりすることがある。特に、-haN の前部が a の場合に、h が脱落しやすい傾向が見られる。

これらの形式は -haN の形と混在しており、音韻変化の過程にあると考えられる。したがって、本研究では、これらの形容詞基本形語尾は -haN として取り扱う。

また、津堅島方言形容詞の終止、連体、準体の各形式は以下のとおりである。

			非過去	過去	
終 止 形	感嘆法		ハ語幹形	takaha	
			ru 形	takaharu	
			i 形	takahai	
			nu 形	takahanu	
			muN 形	takahamuN	
	叙述法	断定	haN 形	takahaN	takahaqtaN
		推量	=hazi 形	takaharuhazi	takahaqtaruhazi
連体形			ru 形	takaharu	takahaqtaru
			基本語幹連体形	taka	—
			ra 形	aqkara:	—
準体形			i 形	takahai	—
			ra 形	aqkara:	—

2-2 多良間島方言の形容詞

多良間島方言の形容詞は、語根 + sja/sa + 接尾辞 aL (厳密には接尾辞化した補助動詞) の構造をとり、語根 + sja/sa が活用の語幹として位置づけられる。本研究では、この takasja-、jaqsa- のような「語根 + sja/sa」の形を「サ語幹」と呼ぶ。また、この方言の形容詞語根 (taka-、jasu-) には独立性の高さがみとめられ、連体形の一形式として活用体系にも加わっていることから、本研究では便宜的にこれを「基本語幹」と呼んでいる。

takasja:L (高い) taka + sja + aL タカ - サ - アリ
 jaqsa:L (安い) jasu + sa + aL ヤス - サ - アリ

サ語幹について、-sja- と -sa- のように、末尾音に口蓋音と直音が現れているが、前者が基本的なタイプであり、後者はその直前の音が促音化したために口蓋化を免れたものである。この他、順行同化現象によりサ語幹末尾音が -ca-、-ra- で現れる形容詞もみられる。

また、多良間島方言形容詞の終止、連体、準体の各形式は以下のとおりである。

			非過去	過去	
終 止 形	感嘆法		サ語幹形	takasja	
			モノ形	takasjanu ~ takasjaN	
	叙述法	断定	L 形	takasja:L	takasja:taL
			(du 融合形)	(takasajada:L)	(takasjadataL)
			M 形	takasja:M	takasja:taM
		推量	zi: 形	takasja:razi:	—

連体形	L 形	takasja:L	takasja:taL
	基本語幹連体形	taka	—
	si 形	pukarasi	
準体形	サ形	takasja	—
	ru 形	takasja:Lru	takasja:taLru

3 文法的意味の比較・考察

以下で取り上げる形式はいずれも「ふたつ以上の節でくみたてられた」複合文の先行節の述語に現れるものである(高橋他2005:251)。そして、その節(文)を中止し、後に新たな節(文)を続けるという、同様の文法的機能を持っている。また、条件形から連用形ではテンスの対立がないという形式的な面においても共通しており、連続的な形式であると言える。よってその扱いにおいては、例えば広義の連用形などとして一括に捉えることも可能であろうが、本研究では、それぞれの形式が実現する先行節と後続節の関係性の違いを重視し、別形式として体系化している。

3-1 接続形

複合文において、特に〈原因・理由〉の関係を実現するために先行節(従属節)の述語に用いられる形式を、本研究では「接続形」と位置づける。現代共通語の〜カラ、〜ノデなどの形式とは異なり、津堅島方言、多良間島方言のいずれでも接続助辞を伴う形式は現れない。

なお、いわゆる〈逆接〉について、津堅島方言では i 形、多良間島方言では終止・L 形および準体・ru 形に¹、それぞれ接続助辞 -ga (du) が後接した形式が現れており、活用のパラダイムには加わらない。

津堅島方言の形容詞接続形は、以下の表に見られる形式で現れる。

	非過去	過去
nu 形	takahanu	—
gutu 形	takahagutu	takahaqtagutu

nu 形、gutu 形ともによく用いられる形式である。テンス表示の過去形に続く場合には gutu 形が用いられる。形容詞を含む先行節の叙述内容がもたらす結果や関連する感覚、状態が後続の主節で表される(例文1、2、6、7)。また、可能、不可能な事柄(例文3、4、8)、相手への要求(例文5、9、10、11)などが主節で表されたりする。

ところで、非過去形において、上記に記したように、文の構造および主節と後続節との関係においてみれば、nu 形、gutu 形の使用に関して大きな差は見られない。ただし、文の意味や内容に注目すると、次のような傾向が見られる。すなわち、主節内容に否定表現

を伴う場合や文意が否定的な場合には nu 形が、ニュートラルな内容や文意が肯定的な場合には gutu 形が用いられやすいようである。

1. ure go:ja:=ja Nzaha-nu ma:ko:-ne:-muN. このゴーヤーはにがいで、おいしくない。
2. ni=nu Nbuha-nu musigaNte:-sakuN. 荷物が重いので、持ちにくそうにしていた。
3. ure mikaN=nu si:ha-nu kamar-aN. このミカンはずっぽくて食べられない。
4. anu taNme:=ja uturuha-nu munu irar-aN=ro. あのおじいさんはこわいので、もの言えないよ。
5. ko:regusu=nu karaha-nu iN-na=be. 唐辛子は辛いから、入れるなよ。
6. are warabe nizidzu:ha:gutu nakaNro. あの子は我慢強いから泣かないよ。
7. saNe:=Nzje jaqsa-ta-gutu ko:ti kisaN=tsuN. サンエーで安かったから買って来たって。
8. goja=ja sisa:-gutu sugu ikujeNce. 胡屋は近いからすぐ行けるよ。
9. ure pizuro:-gutu asirasi-kuN=ga. これは、冷たいから、あたためてこないか。
10. unu musje ma:ha-gutu kariN-ri to. この餅、おいしいから、食べてみて、ほら。
11. ari sibai ziko iso:-ta-gutu ja:mi Nzi Nci-ku:=jo. あの芝居はおもしろかったから、あなたも見てきなさいね。

続いて、多良間島方言について見ていく。同方言の形容詞接続形は、以下の表に示すとおりである。

	非過去	過去
N 形	takasjaN	—
ba 形	takasja:Lba (du)	takasja:taLba (du)
(tari: 形	—	takasja:tari:)

N 形と ba 形はいずれも使用頻度が高く、ならび用いられている形式であるが、後続節(主節)がさししめすコトガラとの関係性、文タイプの違いによる使いやすさの傾向がみとめられる。なお、N 形は終止・感嘆法のモノ形と同音形式であり、モノ形はこの N 形からの転用である²。ただし N 形には takasjanu の形は現れず、異形態をもたない。

まず N 形について、この形式が現れる複合文の後続節には、モノゴトをのべたてる文(叙述文)がくる。特に、先行節のさししめすコトガラにより、自然発生的にもたされた事態が後続節で述べられることが多い。

12. pazikasjaN mipana-nu akasja naL-taL. 恥ずかしくて顔が赤くなった。
13. mamaqfa: pazime:, patapatapata-ti: pi:sjaN fuL:. 継子は始めは、パタパタパタと寒くて震える (ft. 震えていた)。[民]
14. qfasjaN nu:-mai mir-ai-N. 暗くて何も見えない (ぞ)。
15. aru qfa:, sikiju: tsuki: ni:L-badu, sikiju fusjasjaN fai:N-ni:, ある娘は、石油をつけて (ご飯を) 炊くけど、石油臭くて食べられないので、[民]
16. ati aparagisjaN, kuL-u: mi:-taL si:niN-nu Mme:, kairi:ja sinisini si: buL-ba, (その娘が)

あまりに美しいので、これを見た青年たちは倒れて（次々）死んでいくので、[民]

また、naraN（ならない）、MbairaiN（耐えられない）などの語が後に続き、全体で一つの述語のようにふるまう用法も見られた。強調表現の1つであり、先行節あるいは文脈によって示されているコトガラに対する感情や感覚が自ら抑えることができないほど強いものである、ということが表される。なお、この表現はba形によってもつくりことができるが（例19）、N形のほうがより自然に用いられやすいようである。

17. “agai, kabasjaN-du Mbair-ari-N ~” 「ああ、香ばしくてたまらない。」 [民]
18. muLane: NdarasjaN nar-aN-ni:, kaNkaja:-Nkanu uwa:ra-N, ko:ru, panaiki-u tati:, 守姉は（その子が）可哀そうでならなかったの、カンカー家 {note. 屋号} の上手に香炉、花生けを立てて、[民]
19. izü: baqzju: ti:-ja au-fusjasja:L-ba nar-aN. 魚をさばいた手は生臭くてならない。

次にba形について、この形式が用いられる複合文の後続節には、モノゴトをのべたてる文（叙述文）のほか、表現主体の意志を表す文、命令など相手へのはたらきかけを表す文がくる。また叙述文の場合、先行節のさししめすコトガラを受けての、（発話）主体の判断内容や行動が述べられることが多い。なお意志を表す文や相手へのはたらきかける文の場合、N形に置きかえることはできない。

20. kukuru-nu ati zjo:sja:L-badu, tasuki: warri: uki=sja. 心がとても良いから、（神様が）助けなさったんだよ。[民]
21. a-ga muno: ati u:sja:L-ba dame-ti izi:L=dara. （ハルエは）私のもの {note. じゃがいも} はあまりにも大きいからダメって言っているよ。
22. Mme jagati sjasjagi-nu sikiagi-ti-mai, pïtu sikiNke: pazikasja:L-ba, bikiduM-ju, jana:ca-gama abiri:, sïta, uinige: kuL si: sumasi:-du, もう（娘の選んだ男があまりにみすぼらしく、）やがて結婚の式挙げと（いうとき）も、人、世間に対して恥ずかしいから、男をこっそり呼んで、下、上願い、これ（を）して（簡単に）すませて、[民]
23. mata buto: tuzi-nu pu:gi-nu-du piNnasja:L-ba simi-taka:-du, また夫は妻の態度が変なので責めると、[民]
24. “usi-nu cïnu-nu-du, de:Nga: Mmasja:L-ba, qvata: uru: qfai” -ti:, 「牛の角が一番おいしいから、お前たちはそれを食べなさい」と、[民]
25. “nara:, uja-uba: jagumisja:L-ba, pïtu-tukuru-N-ja usjami-N-na” 「自分は、父は恐れ多いので、ひとところには納めるな」 {note. 同じ場所に葬るな、ということ}。[民]

また、希望、願望の意味を表す -buqsa:L（～したい）が後接した派生形容詞について、その接続形は常にba形であり、N形にはなれない。これは、その語彙的意味により、後続節にくるのが主体の意志や意図的な行動、相手へのはたらきかけを表す文に限られることによるだろう。³

26. “pïtju: qva-tu asibi: mi:-buqsa:L-badu, mainici pïqci-na ko:=do:” -ti i:-taka:, 「一晩あな

たと遊んでみたいので、毎日1つずつ（あなたから扇を）買う（ft. 買っている）よ」と言うと、[民]

27. “kanu iMsje:tu mata:ki naL-buqsa:L-ba, jurusi: wari, ~” 「あの漁師と一緒にになりたいので、許してください。」[民]

また、過去形について、ba形に形式的なテンスの対立がみられるほか、終止・過去L形をもととする tari: 形が現れている。tari: 形には終止・過去L形と同じく係助辞-duにとりたてられた形式もある（例30）。

28. unu kwa:së: Mmasja:taL-ba, mata ke: ku:. そのおかしはおいしかったから、また買ってこよう。
29. go:kaku: kikiqte: pukarasja:tari: akamazü: ni:taL. 合格を聞いて嬉しかったから赤飯を炊いた。
30. ati takasja-datari: ka:dataM. あんまり高かったから買わなかった。⁴

3-2 条件形

条件形は、複合文において〈有効条件〉あるいは〈無効条件〉の関係を実現するために先行節（従属節）の述語に用いられる形式である。この形式によって作られる複合文（以下「条件構文」）は、先行節がその内容を「仮定的なものとしてさしだすか、それとも、現実的なものとしてさしだすか」などのモーダルな面によって、次のようにわけることができる（高橋他2005：264より）。

- (1) 仮定的な条件：成立するかもしれないがまだわからない条件
- (2) 予定的な条件：一定時間後に成立が予定されている条件
- (3) 反現実の仮定的な条件：現実にはないが、仮にあることとしてさしだされる条件
- (4) 事実的な条件（既定の条件）：すでに現実に成立した条件
- (5) 一般的な条件：習慣的なくりかえし、あるいは一般的な可能性として成立する条件

このうち、形容詞の条件構文が実現しうるのは、(1)仮定的な条件、(3)反現実の仮定的な条件、(4)事実的な条件⁵、(5)一般的な条件の4つである。

以下、有効条件を表す形式と無効条件を表す形式とに分けて記述、考察していく。

3-2-1 有効条件

〈有効条件〉の関係を實現する条件形は、先行節（従属節）の述語に用いられ、後続節（主節）がさししめすコトガラ成立にとって有効となる条件をさしだす。津堅島方言形容詞のこのタイプの条件形は、次の表に示すとおりである。

ba 形	taka:riba (takahariba)
ne 形	taka:ine (takahaine)

津堅島方言において、有効条件の関係を實現する条件形は、ba形とne形の2つが得ら

れた。ba に承接する形式は、hariba (hjariba) のほか、taka:riba のように riba の直前部分で長音になるもの、jaqsariba のように、sa になるものがある。津堅島方言の形容詞の構造は上にも記したとおり、語根 +ha/sa+aN (存在動詞「ある」) の構造をとる。jaqsaN (安い)、waqsaN (悪い) などは -saN 語尾であり、この場合、語幹は音韻変化せず、そのまま riba に続く。一方、語根 + ha の場合、ha 語幹 + ri + ba (cf.pi:hjariba) の他、ha の部分が音韻変化した形 (taka:riba) で現れる。いずれにしても、ha 語幹由来のものと考えられる。

有効条件の関係を実現する条件形として、ba 形と ne 形の2つの形式が得られたが、使用頻度としては、ba 形の方がやや優位のようなのである。しかし、ba 形と ne 形の相互入れ替えは可能で、33、36の例文において、ba 形の代わりに ne 形を使うことが可能であることが確認できた。それぞれ、入れ替えた例文が、39、40である。

31. de:kuni=ja taka:ri-ba ko:ti ku-N-ti simuN=ro. 大根は高かったら買ってこなくていいよ。
32. iqta: pi:hja:ri-ba uma ku:ti simuN=ro. あなたたちが寒かったら、ここ閉めていいよ。
33. asa tiNki waqsari-ba na atu=kara iku-mi=na. 明日、天気が悪かったら、(島には) 後から行くか。
34. azi afari-ba na ife: masu i:ti-Nri. 味が薄かったら、もう少し塩入れてみて。
35. unu himo=ja naga:ri-ba juta:-tai=ga. このひもはもう少し、長かったらよかったけど。
36. pi:hja:ri-ba na: ti:ce wa:bi=kara kir-aN=ga. 寒かったら、もう一枚上から着ないか。
37. sisari-ba Nzja-i kisa-i hi:-jasa-i=ga tu:ha-ine iki-hi:-jaN. 近かったら、行ったり来たりしやすいけど、遠いと行きにくい。
38. jaqsatiN muno: waqsai-ne suN=du=jaru. 安くても、物が悪いと、損である。
39. tiNki=nu waqsai-ne atu=kara iku-mi=na. 天気が悪かったら、後から行くか。
40. pi:hjai-ne na: ti:ce kiri-ba simuru=munu. 寒かったら、もう一枚着ればいいのか。

続いて、多良間島方言について見ていく。この方言の形容詞の有効条件を表す条件形は以下の表のとおりである。

taka: 形	takasja:taka:
ka: 形	takasja:Lka:
ba 形	takasja:raba (du)

これらの形式はいずれも、上に挙げた4つのタイプの条件—(1)仮定的、(2)反現実、(4)事実的、(5)一般的—をさしだすことができ、相互にいれかえることもできる。ただし、その使用には個人差が見られ、taka: 形が最も出現頻度が高く、次いで ka: 形となっている。これに対し ba 形の出現頻度は非常に低く、ほとんど用いられないようである⁶。

41. sjaki-nu cu:sja:taka: mizi-u bairu. 酒が強かったら水を注しなさい。
42. ure: takasjaN=na: Mme pi:qca jaqsa:taka: kaiL-gadu. これは高いなあ。もう少し安かったら買えるのに。

43. ja:sja-taka: nu:mai umasja:L. ひもじかったら何でもおいしい。
 44. kuNsi: aqca:taka: nu:mai sirai-N. こんなに暑かったら何もできない。
 45. aqca:L-ka: kuma-u aki=na. 暑かったらここをあけようか？
 46. ata: tiNki-nu-du zjo:sja:L-ka:, izi tuL-ga ikazi:. 明日天気良かったら、魚（を）取りに行こう。
 47. ati-du takasja:r-aba ko:na=jo:. あんまり高かったら買うなよ。
 48. aNsjuku-mai puqsar-aba qfizi:. そんなに欲しいならくれよう (ft. あげよう)。

3-2-2 無効条件（譲歩）

〈無効条件〉の条件形は、先行節（従属節）の述語に用いられ、後続節（主節）のさししめすコトガラの成立にとって無効となる条件をさしだす、いわゆる〈譲歩〉の関係を実現する形式である。津堅島方言形容詞のこのタイプの条件形は、次のとおりである。

tiN 形 | takatiN (takahatiN)

無効条件の条件形は tiN が接続する形式で表現される。構造としては「ハ語幹 + ti (て) + N (も)」であると考えられる。そのほかの形式は見いだしておらず、一形式で安定した形式であるといえる。

49. uri warabe pi:hja-tiN haNsudi-gwa:=ru kisa-kuN. あの子は寒くても、半袖を着ている。
 50. uka:tiN warau-na=jo. おかしくても笑うなよ。
 51. na isa:siN taka:tiN ko:-ti-ku:=be. もう、どんなに高くても、買ってきなさい。
 52. jaqsa-tiN muno: waqsai-ne suN=du=jaru. 安くても、物が悪いと損である。
 53. naki-busa-tiN na naku-na=jo nizi-tuki=jo. 泣きたくても泣くなよ、我慢しなさいよ。

続いて、多良間島方言について見ていく。この方言の形容詞の無効条件を表す条件形は以下の表のとおりである。

M 形	takasja:rabaM
mai 形	takasja:rabamai

古い形式である M 形と、新旧の要素が合わさった新しい形式である mai 形とが並び用いられている。用例が少ないためはっきりしないが、動詞の場合と同じく実現される文法的意味の違いはないようである。なお、動詞の場合とは異なり⁷、形容詞には中止形由来の形式は現れない。

54. nubasi: kanasja:r-abaM pitu-nu mai-N-ja nak-amaN=do:. どんなに悲しくても人の人前では泣かないぞ
 55. aqca:r-abaM akiL-na, madu: aki-taka: pai-nu kumaL. 暑くても開けるな、窓を開けたら蠅が入る。

56. u:sjar-abaM uL junu kutu. 大きくてもそれ (は) 同じこと。{not. ジャがいもの味の
こと。大きいものはダメだと言われて反論している}
57. isuke: takasjar-abamai junu munu. いくら高くてもかまわない。

3-3 中止形

中止形は、複合文の先行節の述語に用いられ、その文(節)を中止し、後に新たな文(節)を続ける役割を果たす形式である。先行節と後続節との関係によって〈並列〉や〈理由〉などの用法がみとめられる。ただし、津堅島方言、多良間島方言ともに用例は非常に少なく、自然談話では用いられにくい形式であると言える。

津堅島方言の中止形としては、「タカクテ」に相当するいわゆる第2中止形の1例のみ確認できた⁸。

第2中止形 | takati

58. su:=ja nukuba:ti tiNki-N pari-tuN=ja. 今日は暖かくて、天気も晴れているね。

並列関係を表す場合には終止形・感嘆形に見られる i 形が使用される。

59. ari cu=ja taki-N taka:i suraka:gi=jaN=ro. あの人は背も高く、きれいだよ。
60. wa:zisi taka:i ju:=N taka:i muno: ko:hi:j-aN=ro. 肉は高いし、魚も高いし、ものは買えないよ (=何も買えないよ)。

そのほか、並列関係を表す文や強調表現として語を重複させる文の場合、接続形に見られる nu 形が現れることも多い。

61. su:=ja pi:hja-nu na tiNki waqsaN=ja. 今日は寒くて、天気が悪いね。
62. ari cu=ja takiN taka:-nu suraka:gi=jaN=ro. あの人は背も高く、きれいだよ。
63. je pi:hja-nu duku pi:hja-nu niNdzar-aN-taN. イェ、寒くて、とても寒くて、寝られなかった。

上記に見るように、津堅島方言では、終止形・感嘆形、接続形の形式を使用することで、並列関係を表そうとしている。このことから形容詞の中止形は動詞ほど発達していないといえる。しかし、それは形容詞の特性ともいえる。すなわち、形容詞を含む複文の場合、先行節と後続節とは並列関係をなしにくく、理由、結果、相関などの関係をあらわそうとするからであろう。例文60の後続節、muno: ko:hi:j-aN=ro「ものが買えない」理由が形容詞を含む先行節である。同様に、例文63も、niNdzar-aN-taN「寝られなかった」理由が形容詞を含む先行節である。また、59、61、62も完全な並列関係とはいえ、「(背が) 高い」「寒い」は「きれい」「天気が悪い」の集合の中にも含まれる部分集合であると考えられる。

ただし、〈無効条件〉の条件形で、takatiN の形で中止形に由来すると考えられる takati が見られる。中止形そのものでの使用はほとんどみられないが、〈無効条件〉の条

件形に中止形の片鱗を見ることができる。

次に多良間島方言について見ていく。同方言の形容詞中止形は次の表に示すとおりである。

第1中止形	takasja:ri:
第2中止形	takasja:riqti: (/takasja:riqte:)

第1中止形は現代共通語のタカクに、第2中止形はタカクテにそれぞれ相当する。後者について、文を中止させる用法のみを持ち、動詞の第2中止形 (kakiqti:) と同じく文法的なくみあわせ形式などの形づくりには参加しない。また、タカクテには詠嘆的なニュアンスを帯びて文の終止に用いられる用法が見られるが、この方言の第2中止形はそのような文の終止用法をもたず、同様の意味を表すには、感嘆法のサ語幹形に終助辞 -ja を伴った形式が用いられる (cf.)。

64. riNgo: akasja:ri: funu:-ja kī:rusja:L=do:. りんごは赤くてみかんは黄色いよ。
65. kanu pīto: aparagisja:ri:, miduM: ju:-du nuzumaiL. あの人はかっこよくて、女性によくもてる。
66. kure: takasja:riqti: kere: jaqsa:L. これは高くてあれは安い。
67. ati-du dai-nu takasja:riqte:, M:na basjaqzi: bu-taL=do:. あまりにも値段が高くて、皆怒っていたよ。
- cf. kanu pīto: takasja=ja:. あの人は (背が) 高くてねえ。

なお、第1中止形の文の中止用法は使用頻度が低く、特に相手への語りかけなど会話の場面に用いるのには馴染まないようである。

また、第1中止形は -wa:L (なさる)、-uki (おく)、-kī (くる) などの補助動詞を伴って、尊敬形式やアスペクト形式といった文法的なくみあわせ形式を形づくることができる。自然談話における第1中止形の文法的機能の中心は、この、語形づくりの要素となることである。この点において、多良間島方言の第1中止形は3-4で見える連用形に近づく。

68. siNsi:-ja takasja:ri wa:L. 先生は (背が) 高くていらっしゃる。
69. “sju:, ka:sja:ri: wa:L-pazī aL-ba zju:, unu akaqva-gama-uba:, ba-ga upuga:N si: sju:ta-ga ja:-gami tumu sju:.” 「おじいさん、疲れていらっしゃるでしょうから、さあ、その赤子は私がおんぶしておじいさんたちの家までお供しましょう。」 [民]
70. agai kunu pira-mai ko: pada:, mī:sja:ri: ukī-pazī aL-gadu we: kaNsi:, ああこのヘラも買ったときは、新しかったはずだけど、このように (古くなっている)。
71. piNdabaN-ti:-ja mainici futa:L-na:, nu:-Nke: idi:, ju:-N naL-kena buri: ukī du:L. asjugadu kunu, piNdabaN-ja sikiniN-nu upusja:ri: ukī. 山羊当番とは毎日2人ずつ野へ出て、夜になるまで (そこに) いたようだ。だけどこの山羊当番は責任が大きいものであった。
72. akaqfa-gama-be:M-ti: ume: buL-ke:, sidai kusī-nu piguri: kī-ba, nu:=ga:-ti: umu:-tui du:-

ga ja: ki:, 赤子だろうと思って (歩いて) いるうちに、次第 (に) 背中が冷たく (なっ
て) きたので、何だろうと思いながら自分の家 (まで) 来て、[民]

3-4 連用形

ここでいう (狭義の) 連用形とは、あとに続く動詞や形容詞を修飾する用法、また補助的な動詞とくみあわせり、全体でひとまとまりの述語となる用法をもつ形式を指す。上に見た中止形と同じく複合文の先行節の述語となってその文 (節) を中止する役割も果たしうるが、その文法的機能の中心が文 (節) の中止用法にはないことから、両者を区別して記述することとした。

津堅島方言の形容詞連用形は、以下の表に見られる形式で現れる。

連用形 (ku 形)	takaku
連用形 (ハ語幹)	takaha

津堅島方言においては、連用形の用法のうち、動詞や形容詞を修飾する用法 (連用修飾) の用法しか得られていない。その場合の形式は、標準日本語の「タカク」と同様に「語根 + ku」の形式をとる。

73. inagu cunuja:=si he:ku ik-aN=ro. (正月には) 女 (は) 人の家に早く行かないよ。

74. keNsafuN-ci waqta:=nu aNciru kuNnage: hoNtokaja:-suru. 検査するといつて、私たちはこんなに長く本島通いしてる。

そのほか、補助的な動詞 huN (suN) (する)、nahuN (なる)、na:N (ない) などと組み合わせさせた形式があるが、「語根 + ku」のク形の他、「ハ語幹 + huN」の形式が用いられる。ク形は huN (suN) (する) に接続する形を得られていない。一方、「ハ語幹 + huN」は huN (suN) (する)、nahuN (なる) のほか、aN (ある) に接続する形が見られるが、na:N (ない) に接続する形は得られていない⁹。

ところで、例文83から85にかけては、一見すると「語根 + 補助的な動詞」の形に見えるが、「ハ語幹 + 補助的な動詞」の構造であると思われる。津堅島方言は多くがハ語幹であり、hの脱落や後続の音との融合する音変化の現象がよく見られる。83から85も元はハ語幹であったと考えられ、その痕跡を補助的な動詞の前部に現れる長音部分 (isuna:si, piruma:u-taN, i:ba:ara-hazi=ro) に見ることができる。

75. sikara:ku-na-tui=ga na: Nzi Nziri=jo. 寂しくなったが、もう、意地だしなさいよ {note: 家族が亡くなった人に、くじけずに励みなさいよと声かける時の言い方。}

76. aiga ziko: na nuciga misi=ga magiku-nati=jo umaNre:=nu ja:=nu miNka kawar-aN=je. だけど、とても、何というか、道が大きくなってね、そのあたりの家の、民家 (は) 変わらないでしょ。

77. na atta: so:reNsa:=ga ur-aN-na-ti=kara buru tu:ku-nati-Nzjaru. もう、あれたち兄弟たちがいなくなってから、みんな遠くなっている (親戚付き合いが減っている)。

78. ure na puruku-natu=gutu na jakarakija: hiruru. これはもう古くなっているから普段着（家から着るもの）にしよう。
79. ari deNwaco:=Nka asiku-na:N=garaja. (この本は) あの電話帳より厚くないかね。
80. saNbjaku saNbjakudoru=ci i:-ne=ja na magi-natu=muna. 三百、三百ドルと言ったら、もう大きくなっているでしょ（大金でしょ）。{note:magiku の ku が脱落し、magi + nafuN の形となったものかと思われる¹⁰.}
81. uri warabe pazikaha-suN. この子は、恥ずかしがっている。
82. cu uturuha-si je ik-aN-ba:su:wa. 人を怖がって、イエ、行きたがらないよ。
83. wa=nu isuna:-si jukuiru pima na:na=jo. 私は忙しくして、休む暇なくてね。
84. Nna piruma:-u-taN. meiziNmari waN cui=rutiN. みな不思議がっていた。明治生まれ（は）私だけだといって。
85. amarika:=ja i:ba:-ara-hazi=ro. あのあたりは、狭いことだろうよ。

続いて、多良間島方言の形容詞連用形を示す。

連用形 | takasja

文の途中に位置して、あとに続く動詞のさししめすモノゴトの様子や程度¹¹を表す（連用修飾）。また、先行節（従属節）の述語となって文を中止させる方法もみられるが、連用修飾用法に比べ、その用例数は非常に少ない。

86. “~, kju:-ti-mai nar-aN-niba atuaturakara, Mme kuL-uba: kagi:sja musub-adaka: nar-aN” -ti si:-du,「今日（すぐに）ともできないから、後から、これはきちんと結びましょう（ft. 結婚しましょう）」として（ft. 言って）、[民]
87. qfazime:, mata ja:-Nka bu-tuimai junaka-du upusja naki-ba piru-nu naki kui-ja joi:N kik-ai-N, ヤモリはまた家の中にも夜中（に）大きく鳴くから、昼の鳴く声は容易に聞けない。[民]
88. niNgiN-ti:-ja, kukuru: zjo:sja mucu-du, nu:-gutu: si:-mai, kacè: mi:L-ti:. 人間とは、心を正直に持つ（ほど）、何事をする（に）も、勝ちは見える（ft. 勝てる）って。[民]
89. uipitu-nu aNsi:, zikaN-mai nifusja tamunu: bari: wari:L=ge:ra-ti: umu: kimuci-nu-du, aNsi:-ja kukuru-nu sinubarai-N-ni:, muduri: iki:, お年寄りがそのように、時間も遅く、薪を割っていらっしゃるなんてと思う気持ちが（して）、そうするのは {note. そのまま通り過ぎるのは} 心が忍ばれないので、戻って行って、[民]
90. kure: upusja, unu paku: imisja. Ndi-ga wa:ti=ga:. これは大きく、その箱は小さい。どっちがいいのかな。

また、動詞 si: (する)、naL (なる) とくみあわさって、全体で1つの自動詞、他動詞述語のようにふるまう¹²。また、ne:N (ない) とくみあわさって、否定形式を形づくることができる（例97）。

91. Mme gaNzjusja si: wariri. もう元気にしていらっしゃってね。
92. agai, bata-ga:sja si-ke-du munu fe: ne:N. ああ、腹が苦しくなるまでの(を)食べてしまった。
93. kuL-mai ka:qzi: Mmepi jaqsa sju:maN=na. これも買うからもっと安くしないか。
94. uNnu ju:kara kagisja nari:, その夜から(また)仲良くなって、[民]
95. kuba-nu pa:-nu jaL-ra:si: idi:-N-gutu, ki: munu-ne:N si: NdiL ba:-ja, kadifuki-nu-du cikasja naL. びんろう樹の葉が槍のように出ないで、切りものみたいに (ft. 切り揃えたように) 出るときは、台風が近くなる。
96. ga:ju siqti:, ga:-nu u:sja nari:, (政府の役人と) 言い争いをして、(その) 言い争いが大きくなって、[民]
97. umasja ne:N nasi=jo:. コレガオイシイ。(それは) おいしくない梨(だ)よ。これがおいしい。

ヒトの心理的な状態を表す形容詞(感情形容詞)の場合、その連用形と si: (する) がくみあわさった形式は、現代共通語の「(ウレシ) ガル」に相当する自動詞のようなふるまいを見せ、主体の感情的な態度を表す。なお、同様の意味は準体・サ形の対格形式と si: のくみあわせによっても表され、こちらの方が連用形+ si: よりも優勢である(例101、102)¹³。

98. “nusutai kaNsi: buL=ga” -ti:, p̄irumaqsa si: buL-badu, (お供え物がみな空になっているので)「なぜこのようにしているか」と不思議がっていると、[民]
99. aN-ja nama ati pukarasja: si:L=do, qva-ga aNsi dikasi: buL-ba. 私は今とても喜んでるよ、君がこんなに立派になっているから。
100. ‘aNsi-nu jarabi-nu kuqzi:, ki-tika: uL-u kanasja si: niNgiN-ja baqsi-gumata’ -ti: taqsi-nu ari: uki=sja. 「こういう子供 {note. 政治犯の子} が来るので、来たらその子を可愛がる人間は罰する」と(いう)達しがあったんだよ。[民]
101. aNsiqte, miutura-bakaririqti: pusi-N nari:, sabiqsa-u si: iki-taL-ti:. そうして夫婦別れ(をし)て星になり、寂しがって(暮して)いったそうさ。[民]
102. imisja:L-ke: aNna-u kanasja-ba si:, ju:du naki: bu-taL=do:. 小さい頃、お母さんを恋しがってよく泣いていたよ)

4 まとめ

本稿では津堅島方言形容詞と多良間島方言形容詞との形式・用法の側面からの比較を試みた。以下にその結果をまとめる。

- 1) 形容詞接続形は、津堅島方言では nu 形と gutu 形、多良間島方言では N 形と ba 形と、ともに主要な表現形式として2つの形式が認められる。そして、両方言ともに2形式にその使いやすさの傾向が見られる。しかし、その傾向の観点はそれぞれに異なる。津堅島方言では、主節と従属節(形容詞を含む)との関係性ではなく、主節と従属節

とが表す内容によって nu 形と gutu 形の使用に違いが生じる。すなわち、内容が否定的な場合には nu 形が、内容がニュートラル、肯定的な場合には gutu 形が用いられる傾向がある。一方、多良間島方言では、主節と従属節との関係において、N 形と ba 形の使用に違いが生じる。すなわち、従属節（形容詞を含む）が表すコトガラにより、自然発生的にもたらされる事態が主節に述べられる場合には N 形が、叙述文、表現主体の意志、相手へのはたらきかけが主節で述べられる場合には ba 形が選択されやすい。津堅島方言の場合、表現者が表現内容をどのように判断したかが nu 形と gutu 形で表出されるのに対して、多良間島方言の場合は、それぞれの節がさしめすコトガラの関係性が N 形と ba 形で表出されている。前稿で津堅島方言と多良間島方言との違いとして、以下のことが得られた。すなわち、津堅島方言は、文末詞の後接によって話者の判断や聞き手に対する態度を表現しようとするが、その一方で、多良間島方言はモダリティ表現が動詞や形容詞の語形変化によって担われ、表現者の主体性を語形式の違いで明確に示そうとするということである。そのような表現タイプの違いとの関連が形容詞接続形でも見いだされている。

- 2) 有効条件の関係を實現する条件形は、津堅島方言では、ba 形と ne 形の2つ、多良間島方言では、taka: 形、ka 形、ba 形の3つの形式が得られた。ba 形は両方言に見られる形式であるが、津堅島方言では積極的に使用されるのに対して、多良間島方言では、他の2つの形式の方が優勢である。ba 形を含めて複数の形式を両方言ともに持っていること、また、それらの形式は相互に入れ替えて使用することができる点などは共通する。
- 3) 無効条件の関係を實現する条件形は津堅島方言では中止形由来の tiN 形が現れるのに対して、多良間島方言では中止形由来の形式は現れない。かわりに M 形、mai 形の形式が使用される。M 形が古い形式で、mai 形は新旧の要素が合わさった新しい形式であること以外、文法的意味の違いは見られない。条件形は、複数の形式をもつものの、文意や文のタイプによる使用の差異はなく、相互に入れ替えが可能であったり（津堅島方言・有効条件、多良間島方言・有効条件／無効条件）、一形式しか持たなかったりする（津堅島方言・無効条件）など、かなり安定度の高い形式であると考えられる。それは、条件構文が論理性の高い構文であることが理由の一つではないかと考える。
- 4) 中止形は、津堅島方言では第2中止形が、多良間方言では第1中止形と第2中止形が得られた。このことから、動詞中止形に見るような第1中止形と第2中止形を設定することが体系上可能であるように思われるが、中止形の使用頻度は決して高くなく、一人語りなど場面の制限があるようである。なお、津堅島方言においては中止形は1例を見るのみで、多良間島方言の場合とは異なり、補助動詞を伴う形はすべて連用形をもととする。つまり、多良間島方言の方が派生形式のバラエティに富んでおり、ここにも、前稿で明らかにした両方言の「表現」のための文法的手段の差異が現れていると言える。
- 5) 連用形は、津堅島方言、多良間島方言ともに、後続するコトガラの様子や程度を詳しく説明するいわゆる連用修飾用法と、「する」「なる」に相当する補助的な動詞をと

なって全体で一つの動詞として振る舞う用法が主たるものである。ただし多良間島方言では、中止用法もわずかながら見られる。

以上まとめたとおり、両方言には、複数の形式をもってその使用に文法的意味の違いが見られるもの(形容詞接続形)、複数の形式をもつものの相互に入れ替えが可能であるもの(条件形)といったように、形式の使用に関して共通点がある。しかし、形式そのものやその使い分けかたには差異があり、その差異はそれぞれの方言のもつ表現タイプの違いによるところが大きいと考えられる。簡単に言えば、津堅島方言は表現者の感情や判断が、多良間島方言は表現内容や節(文)と節(文)との論理性が文法現象に関わる側面がより色濃いように見える。

前稿に引き続き、形容詞の用法や形式について見てきた。津堅島方言と多良間島方言の形式の違いもさることながら、表現タイプの違いを見いだせたことが本研究の大きな成果であろう。しかし、それは形容詞という一品詞からの見方である。今後は、動詞や助詞などそのほかの文法的な差異にも注目して、両方言の特色をより明らかにしていきたい。

参考文献 (50音順)

- 上村幸雄1961「沖縄本島」東条操監修『方言学講座 第四巻』東京堂
内間直仁1994『琉球方言助詞と表現の研究』武蔵野書院
亀井孝, 河野六郎, 千野栄一編著1997『日本列島の言語』三省堂
工藤真由美2007『日本語形容詞の文法 - 標準語研究を超えて』ひつじ書房
下地賀代子2008「形容詞の語彙的意味と形式の相関 - 琉球・多良間島方言 -」『千葉大学人文研究』37
下地賀代子2009「琉球・多良間島方言の形容詞」『国文学 解釈と鑑賞』74-7 ぎょうせい
高橋太郎他2005『日本語の文法』ひつじ書房
名嘉真三成1983「琉球宮古方言の形容詞」『琉球大学教育学部紀要』26
名嘉真三成1986「琉球方言の形容詞」『琉球大学教育学部紀要 第一部』29
*いずれも名嘉真1992『琉球方言の古層』(第一書房)所収; 555-601, 602-637
又吉里美, 下地賀代子2010「琉球方言における形容詞の比較研究」『南九州地域科学研究 所所報』27

¹ 多良間島方言の〈逆接〉の関係を実現する形式について、使用に世代差が見られ、準体・ru形をベースとする形式の方がより古いように思われる。

(1) ka:sja:L-gadu siġutu juk-ai:N. きついで仕事(は)休めない。

(2) puka: aqca:L-gadu, ik-adaka: nara:N. 外は暑いけど、出かけなければならない。

(3) riku-kara aLki: iki-taka: cikasja:Lru-gadu, pitu-nu mi:L-ba-ti umuti:, 陸から歩いて行ったら近いけど、人が見るから {ft. 人に見られるから} と思って、[民]

² 詳細は又吉・下地2010を参照されたい。なお前稿の段階では、本稿における接続・N形

を「確定条件を表す条件形」として捉えていた。この場を借りて訂正する。

- ³ -buqsa:L と同様の意味を表すものに -tasja:L があるが、現在は si-tasja:L (したい) の形でしか用いられず、またその意味も、「(便所で) 用を足したい」という言う場合のみに限られている。

・ “sibaL si-tasja:L-ba qva: sjaki-N aiki: buri” -ti:, 「小便したいので、あなたは先に歩いていなさい」と、[民]

- ⁴ tari: 形の du にとりたてられた形式には、例30の融合形のほか分析的な形式も現れている。

・ ati takasja-du atari: ka:dataM. あんまり高かったから買わなかった。

- ⁵ 形容詞条件形の「事実的な条件」の用法について、動詞の場合とは異なり、従属節がさししめすデキゴトのテンス的意味は〈現在〉であるため、その説明は「今現実で成立している条件」とすべきだろう。また、主節述語のテンス形式も過去形とはならない。

- ⁶ おきかえ調査を行った話者の語感も、ba: 形は全く使わない、聞かない形式だが「言えなくはない」というものであった。

- ⁷ 多良間島方言の動詞の無効条件を表す条件形には、M 形と mai 形のほか (kakabaM, kakaba-mai)、中止形を由来とする形式 (kaki-mai/ kakiqti-mai/ kakitui-mai) の3タイプが現れている。

- ⁸ 中止形を確認するために現代共通語を翻訳する形で聞いたものであり、自然会話の中での用例は得られていない。

- ⁹ na:natuN 「なくなっている」の例が見られるが、na:N (なし) の活用は特殊型と考えられるので、別扱いとする。

- ¹⁰ magahaN は「大きなもの」という準体言的な用法として magi: となることがあり、連体修飾においても magamisi ではなく、magimisi (大きな道)、magicu (大きな人) となる。maginatuN も連体修飾の用法に関連するものがあると考えられるが、詳細については未確認である。

- ¹¹ このときの形容詞連用形は、「動詞 (形容詞) をかざり、これらのさししめす属性の属性 (ようすや程度) などをさししめし、文のなかで修飾語としてはたらく」という点で、副詞的である (高橋他2005: 151)。形容詞の副詞への転用・派生については稿を改めて論じたい。

- ¹² naL (なる) について、モノゴトの〈特性〉を表す形容詞とくみあわさっている用例が多く現れている。だが、感情形容詞とのくみあわせはほとんど見られず、pukarasja:L (嬉しい) をもととする派生形容詞 pukarasjagisja:L (嬉しそうだ) に1例現れただけである。またこの場合、主語は話し手以外のヒトでなければならない。

・ futa:L-ja pukarasja-gi nari:, ujaMma-Nke: sudigapu:-ju si:, gama-nu ja:-Nke: iki: uki=sja. 2人は嬉しそうに、父母へ感謝をして、洞窟の家へ行ったんだよ。[民]

- ¹³ ただし、準体・サ形 + si: の形式はこのタイプの形容詞に限られるものではない。

(平成23年1月24日 受理)